

緑区浦里学区

災害時避難行動マップ

～死者ゼロ・火災ゼロ・逃げ遅れゼロを目指して～

この避難行動マップは、大規模な地震や風水害が発生した場合を想定し、浦里学区のみなさんが、お住まいの地域の危険箇所や避難経路などについて話し合い、作成したものです。避難行動マップをもとに、「いざ」という時どんな行動をとればよいのか日頃から考えておきましょう。

【役に立つ場所】

	災害時に地域に対して支援協力してくれる事業所です。 なるばーく ネットヨタ愛知株式会社本店 山城土木株式会社
	NTTが設置する公衆電話は、災害時には優先的につながり、状況に応じて無料になります。
【その他】	・コンビニ、スーパーなどの商業施設 営業していれば物資の調達が可能 公衆電話が設置されている店舗あり ・病院、診療所など

指定避難所

火災や家屋の倒壊、家具の転倒などにより、自宅に住むことが出来なくなった方が、一定期間、避難生活を送るためのところです。

浦里小学校 (TEL 892-7610)
 浦里コミュニティセンター (TEL 892-1886)

【重要】 指定避難所の収容人数には限りがあります。避難所での生活は環境の変化から体調を崩す方も多いため、自宅で避難生活を送れるように、家具の固定と、7日分の備蓄を進めましょう。

気を付けて!(地震編)

- 1. 空き家**
耐震性が低いと倒壊しやすく、無人のため火災延焼の危険がある。
- 2. 古い(高い)ブロック塀**
大きな地震では倒壊する危険があるためすぐ離れる。近づかない。
- 3. 狭い道**
近くの家が倒壊した時、道がふさがれて通れなくなる可能性がある。
- 4. 電線**
切れた電線は停電時でも感電の危険がある。近づかない。
- 5. 瓦屋根**
大きな揺れの際には瓦の落下危険がある。瓦屋根のある家屋に住んでいる方は、あわてて外に飛び出さない。



気を付けて!(風水害編)

- 1. マンホール・側溝**
マンホールや側溝は足を取られる危険があるため、道路の中央や端を避けて避難する。
- 2. アンダーパス、よく冠水・浸水する場所**
掘り下げ式の道路であるアンダーパスやよく冠水したり、過去に浸水した場所は浸水している可能性があるため、避けて避難する。



あなたの自主防災会の一時集合場所

凡 例	
	指定緊急避難場所
	指定避難所
	津波避難ビル
	地下式給水栓
	下水道直結式仮設トイレ設置場所
	公衆電話
	AED設置場所
	一時集合場所から浦里小学校への避難経路の例

【各自主防災会の一時集合場所】

災害発生直後は行政機関が十分に機能しないため、地域の皆さまによる安否確認、初期消火、救助活動が、被害の拡大を防ぐ大きな力となります。まず、自分の身、そして家族の安全を確認後、一時集合場所に集合して自主防災活動に参加しましょう。避難が必要な場合には、広い道路など安全な経路で指定避難所に向かいましょう。

番号	一時集合場所	自主防災会名	番号	一時集合場所	自主防災会名
1	駐車場	いずみ自治会	6	浦里小学校校門	浦里
2	駐車場		7	南越公園	県営鳴海住宅第1 県営鳴海住宅第3
3	鳴海西団地集会所	鳴海西団地	8	第一鳴海西住宅集会所	第一鳴海西住宅
4	浦里荘集会所	市営浦里荘第1 市営浦里荘第2	9	第二鳴海西住宅集会所	第二鳴海西住宅
5	南浦里荘集会所	市営南浦里荘			

指定緊急避難場所

・洪水・内水氾濫、土砂災害、大規模な火事などの、目前に迫った危険から命を守るための場所です。

指定緊急避難場所	災害種別				
	洪水・内水氾濫	土砂災害	津波	大規模な火事	地震の揺れ
1 浦里小学校	2階以上	○	3階以上	×	グラウンド
2 浦里コミュニティセンター	2階以上	○	—	屋外	屋外
3 浦里荘2・3棟	×	×	3階以上	×	×
4 南浦里荘	×	×	3階以上	×	×
5 浦里公園	—	—	—	○	○

緑区

浦里学区

世帯：2,116 世帯

人口：4,513 人

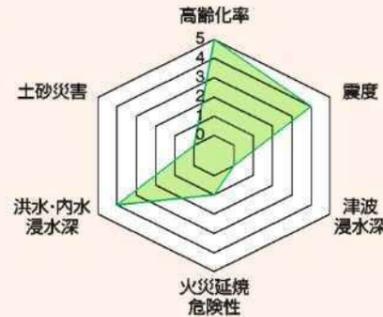
面積：0.561 km²

(令和2年1月1日現在推計人口より)

当学区は、天白川に隣接しているため、学区全域で洪水による浸水の危険性があります。避難の情報をしっかりと確認し、早め避難を心掛けましょう。既に浸水が始まっている場合は、むやみに避難せず、自宅や周辺の安全な建物の上階に移動してください。

リスクレーダーチャート

	値	5段階
高齢化率	32.3%	5
震度	6強	4
津波浸水深	0m	0
火災延焼危険性	100棟未満	1
洪水・内水浸水深	2.0~3.0m 未満	4
土砂災害	警戒区域なし	0



お住いの地域のことを知っておくことは大切です。ハザードマップをはじめとした災害リスクや避難先のほか、地形、歴史、建物状況(密集状況や古いブロック塀など)及び防災活動状況等を確認し、家族や自治会で話し合うなど、日頃から防災、減災意識を高め、いざという時に備えましょう。

●参考資料として「地区防災カルテ」をご活用ください。
名古屋市 地区防災カルテ 検索



一人ひとりの力を合わせて、大規模災害に立ち向かう!

- ◆ 台って生活します。
- ◆ 「災害救助地区本部」は、区本部の補助機関であり、学区の被害や必要物資などを整理して区本部(区役所)に伝えるほか、様々な防災情報を学区の住民に伝達します。

避難先へ安全に避難するための5つのポイント

- ① ガス・水道の元栓を締め、ブレーカーを切る!
- ② 「一緒に逃げよう」近所への声かけ!
- ③ 高齢者や障害者などの避難誘導を!
- ④ 原則徒歩で!(渋滞抑止・高齢者や障害者などの避難を妨げない)
- ⑤ 木造住宅密集地、がけ地や川の近くは避けて!

風水害時の行動

3日前

台風が発生した情報収集

- テレビ・ラジオ・スマホなどから台風の大きさ・強さや川の水位などの情報入手

2日前

台風や大雨が来るぞ!! 準備

- 避難ガイドやハザードマップで指定緊急避難場所、指定避難所や浸水想定区域等の確認
- 家族との連絡方法の確認
- 家の周りの飛ばされやすいものや、流されやすいものの片付け

1日前

雨足が強くなってきた!! 避難の判断

- 情報収集を続けて、避難開始時期を判断
- 50cm以上の浸水時は避難に危険が伴うため注意
- 自主的に避難する場合には、事前に区役所へ連絡する

避難情報の発令等により避難行動!! 避難開始

避難準備・高齢者等避難開始

- 避難の事前準備をする心構えをするために発表するもの。
- 高齢者や障害者が自主避難を開始する目安

ただちに避難!(普通避難)

- 指定緊急避難場所までの道が危険な場合は、身近な建物のできるだけ上の階へ
- 屋外での避難が危険だと感じたら、自宅の上階へ

●洪水・内水氾濫の想定浸水深より下の階にいる

●土砂災害警戒区域にいる

●堤防の近くで、安全な建物*にいない

*鉄筋コンクリート造

自力で避難できない場合は、どこか一つ以上該当する

一人では逃げられない方への対応

過去の災害では、周囲からの「声かけ」と「避難の手伝い」が、高齢者や障害のある方などの避難行動を早めました。日頃から一人で逃げられない方を把握し、地域みんなで、いち早く避難行動がとれるよう協力しましょう。

情報の入手や判断が難しい方

例えばこんな方: 目が見えない方、耳の聞こえない方、認知症の方、知的障害のある方、日本語が苦手な外国人、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯など。

対応方法: やさしい言葉でゆっくり声かけ、メモや身振り手振りで伝える

移動が難しい方

例えばこんな方: 普段、杖・押し車・車椅子などを使っている人、寝たきりの人、けが人、病人、妊婦さんなど。

対応方法: 複数で手伝う、身近にあるものを利用する

外国人の方へ (For Foreign Residents)

外国人に覚えてほしい防災のポイントを知ることができます。

You can find important disaster prevention information for foreign residents at the following website.

(<http://www.city.nagoya.jp/kankobunkakoryu/page/0000088955.html>)



在宅避難のススメ

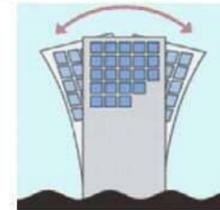
避難所は、不特定多数の方が避難生活を送るため、環境の変化とともに大きな負担がかかることが想定されます。火災や家屋倒壊などの危険がない場合は自宅で避難生活を続ける「在宅避難」を考えましょう。その際は、下記のことを心がけましょう。

- 在宅避難している高齢者や障害者などに声をかけよう!
- 周囲に自宅避難を知らせよう! 最寄りの避難所で避難者登録しよう!
- 周囲で声かけし、食料や物資を分け合おう!

マンションでの防災・減災

マンションは耐震性・耐火性のほか、保安面で優れていますが、大規模災害時には、長周期地震動による揺れ、火災延焼、エレベーター停止、断水等によるトイレの使用制限、住民の室内の様子が分かりにくい等マンション特有の懸念もあります。安心して生活するためにも、普段からの備えを進めましょう。

(例) 出典：気象庁ホームページ



●高層建築物は、長周期地震動と共振して長時間、大きく揺れる。(家具の転倒防止。できない場合でも部屋に「ここだけは安全!」という場所をつくる)



●配水管が安全確認できるまでできるだけ水を使わない。(下階における汚水の逆流防止。簡易トイレ(便袋)などを活用)



●地域コミュニティとの良好な関係(日頃の挨拶・声掛け。熊本地震では地域と良好な関係を築いていたマンションに、地域の働きかけで支援物資が届いた事例がある)